

# AIエージェントとは何か。 「代わりに仕事をするAI」の 基礎と中小企業での始め方

指示を出すだけで複数の作業を自律的に進める「AIエージェント」とは何か。生成AIとの違いや仕組みを平易に解説し、中小企業が最初の一步を踏み出すための考え方を整理します。

## この資料の要点

- AIエージェントは「一問一答」ではなく「目標を与えると自律的にタスクを完了する」AIのこと。
- 定型・反復・確認しやすい業務から始めるのが、失敗リスクを抑えるコツ。
- 大規模なシステム投資なしに、クラウドサービスを使ったスモールスタートが現実的。

## AIエージェントとは何か

AIエージェントとは、ゴール（目標）を与えると、自分で計画を立て、必要なツールを呼び出し、結果を確認しながらタスクを完了まで進める自律型のAIです。

たとえば「今月の競合他社の動向を調べてレポートにまとめて」と指示すると、AIエージェントはWebを検索し、情報を収集し、整理して文書化する——という一連の作業を人が手を動かさなくても進めます。従来のAIチャットが「1つの質問に1つの答えを返す」道具だとすれば、AIエージェントは「目標を渡せば仕事を代わりにやってくれる」存在です。

## 生成AIとAIエージェントは何が違うのか

- **自律性**：生成AIは人が都度指示を出すたびに動く。AIエージェントはゴールを受け取ったら、途中のステップを自分で決めて動き続ける。
- **ツール利用**：生成AIは基本的にテキスト生成のみ。AIエージェントはWeb検索・ファイル操作・外部サービスAPIなど、複数のツールを自分で選んで使える。
- **反復と修正**：生成AIは1回で終わり。AIエージェントは結果を自己評価し、うまくいかなければやり方を変えながら何度も試みる。

生成AIが「アシスタント」なら、AIエージェントは「代行者」です。

## AIエージェントが「仕事をする」しくみ

- ① **認識**：ゴールや現在の状況を把握する。
- ② **計画**：目標を達成するために必要なステップを組み立てる。
- ③ **実行**：各ステップを実際に行う（Web検索、文書生成、API呼び出しなど）。
- ④ **評価・反復**：結果を確認し、不十分なら修正しながら再度試みる。

この「計画→実行→評価→再計画」のループが、AIエージェントを単なる生成AIと分けるポイントです。

## 中小企業で活用しやすい業務はどこか

### 向いている業務の3条件

- ・ **高頻度**：毎日・毎週繰り返される定型的な作業。
- ・ **定型**：手順がある程度決まっておき、判断の幅が狭い。
- ・ **低リスク**：結果を人が確認・修正できる、ミスが起きても影響が限定的。

### 具体的な例

- ・ 問い合わせメールの一次分類と返信下書き作成
- ・ 社内議事録・報告書の要約と配布
- ・ Webからの競合情報・市況レポートの定期収集
- ・ 定型フォームの入力補助や転記作業
- ・ SNSや自社ブログ用の下書きコンテンツ生成

## 始め方の考え方——スモールスタートが成功の鍵

- ・ **Step 1 — 棚卸し**：社内の繰り返し作業をリストアップし、「高頻度・定型・低リスク」の業務を1つ選ぶ。
- ・ **Step 2 — 小さく実験**：クラウドサービスや既存のAIツールを使い、選んだ業務だけで試す。
- ・ **Step 3 — 効果確認**：処理時間・担当者の負担・ミスの数を比較し、効果を言語化する。
- ・ **Step 4 — 改善と横展開**：うまくいったら他の業務へ広げる。うまくいかなければ業務選定を見直す。

## まとめ

AIエージェントは「一問一答のAI」ではなく、「目標を与えると自律的にタスクを完結させるAI」です。2026年現在、クラウドサービスの普及によって中小企業でも現実的なコストで試せる環境が整っています。まず1つの定型業務から小さく始め、成功体験を積み上げていくことが、長く使い続けるための近道です。

---

本資料に関するご相談・お問い合わせは 株式会社DnD まで。

<https://dnd-inc.jp/contact.html>